

新課程セ試平均点(900点満点)は、

文系型 16.9点アップの563.9点、

理系型 33.4点アップの572.0点！

基幹科目の英語、国語、数学・Bアップで、高得点。
英語は筆記127.4点、リスニング36.1点の得点率65.3%で、
前年より14.1点アップ。

旺文社 教育情報センター 18年1月25日

新課程入試初年度となる18年センター試験(本試)が1月21日(土)・22日(日)の両日、全国721試験場で実施された。大学入試センターが1月25日に発表した各科目の平均点等の中間集計を基に、文系・理系の標準型-5(6)教科7科目(900点満点)-の平均点を算出した。

文系型563.9点、理系型572.0点で、ともに前年より大幅アップ。今回初実施の英語リスニングテストの平均点は36.1点、筆記と合わせた得点率は65.3%(200点満点換算で130.6点)で、前年より14.1点アップした。各科目の平均点等の最終確定は、2月8日に発表の予定。

志願・受験状況

< 志願状況：志願者数約55万人で、3年連続減少 >

志願者数、前年より約1万8,600人減：18年センター試験(以下、セ試)の志願者数は、前年比3.3%減の55万1,382人で、3年連続の減少となった。

現役“増”、浪人“減”：高校等卒業見込者(現役)の志願者数は18歳人口・高卒者数減の中、17年より4,195人(1.0%)増え、3年連続減に歯止めがかかった。現役志願率も36.2%で、過去最高。現役の増加は、私立大・短大のセ試利用入試拡大による、国公立大「5(6)教科7科目」敬遠組の囲い込み、志願率アップなどによろう。

一方、高校等卒業生(浪人)の志願者数は17年より2万2,298人(15.8%)も一気に減り、3年連続の減少である。16%近い大幅な減少は、受験生数の減少に加え、新課程入試に対する不安から17年入試で浪人を避けたことなどによろう。

志願者数減の背景：私立大のセ試参加増(32大学87学部増の440大学1,179学部。セ試利用定員2,299人増の3万5,660人)と短大の参加増(21短大増の133短大)に加え、過去最高の現役志願率など、セ試利用の入試環境は拡大の方向にある。

しかし、18年の18歳人口は17年より4万人(2.9%)、高卒者数は3万5,000人(2.9%)のそれぞれ減少が見込まれ、大学受験者数(実数)も4万2,000人(6.0%)減の65万7,000人、短大は4,000人(4.1%)減の9万4,000人程度と予測される。

こうしたことが、セ試志願者減にもつながっているとみられる。

< 受験状況：軒並み受験者減の中、公民のみ約 1 万 3,000 人(4.1%)の大幅増 >

第 1 日目(1 月 21 日)と第 2 日目(22 日)の受験状況は、以下のとおり。

[第 1 日目](1 月 21 日)

教科等	18 年受験者(対前年比)	18 年受験率(対前年比)	17 年受験者	17 年受験率
公民	327,374 人(+4.1%)	59.4%(+4.2ポイント)	314,439 人	55.2%
地歴	357,706 人(-3.3%)	64.9%(±0)	369,811 人	64.9%
国語	482,815 人(-2.5%)	87.6%(+0.7ポイント)	495,085 人	86.9%
外国語 筆記	500,493 人(-3.9%)	90.8%(-0.6ポイント)	520,940 人	91.4%
外国語 リスニング	492,596 人()	89.3%()		

[第 2 日目](1 月 22 日)

教科等	18 年受験者(対前年比)	18 年受験率(対前年比)	17 年受験者	17 年受験率
理科	200,349 人()	36.3%()		
数学	369,951 人(-3.6%)	67.1%(-0.2ポイント)	383,636 人	67.3%
数学	331,175 人(-2.7%)	60.1%(+0.4ポイント)	340,248 人	59.7%
理科	237,090 人()	43.0%()		
理科	168,574 人()	30.6%()		

注 1. 外国語の「筆記」は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語。「リスニング」は英語のみ。

2. 理科、理科、理科は、出題の科目構成が 17 年と大きく変わったため、17 年は で表示。

各教科(受験枠)の受験状況を見ると、軒並み受験者減の中、公民の 1 万 2,935 人(4.1%)増が目立つ。これは、時間割が前年までの第 2 日目最終コマから第 1 日目の 1 時間目に移り、第 1 日目が文系科目でまとまったことや、前年の現代社会の平均点が高得点であったことなどによるとみられる。

なお、公民は地歴に比べ、従前から比較的得点し易いと思われており、理系志望者を中心に、いわゆる“公民保険”としての受験もあろう。

ほとんどの受験生が受験する外国語の受験者数(筆記試験)は、前年を 2 万 447 人(3.9%)下回る 50 万 493 人で 3 年連続の減少となった。受験率(受験者数÷志願者数)も 0.6 ポイント低下し、90.8%だった。

今回初めて実施された英語リスニングテスト(以下、リスニング)は、一般入試において、国立大 96%、公立大 92%、私立大 64%でそれぞれ合否判定に利用(筆記とリスニングの得点次第ではリスニング不採用の場合も含む)される。こうした状況の下、リスニング受験者は 49 万 2,596 人で、受験率は筆記より 1.5 ポイント低い 89.3%だった。受験率が 9 割を割り込んだ背景には、国公立大に比べ、私立大の利用度の低さがある。

なお、リスニングでは IC プレーヤーの不具合などから 465 人の再テスト対象者が出たが、そのうち 457 人がリスニング終了後に別の機器で再テストを受けた。

科目別平均点等(中間集計：大学入試センター発表、1 月 25 日)

主な科目の前年との平均点差をみてみよう。国語は旧「国語」、理科は旧「B」科目との比較。英語は「筆記+リスニング」の得点率を基に 200 点満点に換算して比較。

前年より平均点がアップした主な科目は、生物（前年比+17.6点）、英語（同+14.1点）、物理（同+13.7点）、数学・B（同+5.5点）、国語（同+5.4点）などで、英語、国語、数学・Bといった基幹科目が含まれている。

英語は、注目されていたリスニングが形式・内容・問題量など、ほぼ試行テスト（16年9月実施）を踏襲。難易度は「易～標準」（全体としては英検準2級程度）で、比較的聞き取りやすく、高得点につながったとみられる。

一方、筆記も形式・内容・問題量など、ほぼ前年どおりで、リスニング導入による変化はなかった。全体としてやや易しくなった。

国語は旧「国語・」と比べ、出題形式や分野（近代以降の文章2題、古文1題、漢文1題）などに変更なく、全体の難易度も前年並み。

数学・Bの大問構成（第1・第2問必答、第3問～第6問より2題選択）は前年どおり。丁寧な誘導がつくなど、全体としてやや易化し、平均点アップ。

理科は前年大幅ダウンとなった生物と、物理が大幅アップ。生物は問題数の減少や考察問題の易化、物理は問題数の減少と定性問題の増加などによろう。

一方、平均点ダウンした科目は数学・A（前年比-7.5点）の他、地歴と公民に集中。

数学・Aは大問構成が大きく変わり、選択問題がなくなって大問4問必答となった。一部の設問内容の複雑化などで、やや難化した。

なお、現代社会（同-11.9点）や地理B（同-5.2点）は、前年の大幅アップから一転して大幅ダウンとなった。

新登場の理科総合A（物理・化学分野）と理科総合B（生物・地学分野）の平均点は、ともに67.5点で同じ。なお、旧「総合理科」（4分野総合；前年平均点49.0点）に比べ、18.5点アップしている。

大学入試センターから発表された科目別平均点と受験者数（中間集計）をもとに旺文社が算出した5(6)教科7科目（900点満点）の加重平均点は、文系標準型（地歴と公民各1科目、理科1科目）が前年より16.9点アップの563.9点、理系標準型（地歴と公民合わせて1科目、理科2科目）が前年より33.4点アップの572.0点となった。生物、物理の大幅アップに対し、現代社会の大幅ダウンと日本史B、地理Bのダウンが、文系と理系の平均点アップの差に現れたようだ。

文・理系型共通の5教科6科目の平均点（地歴と公民合わせて1科目、理科1科目の800点満点を900点満点に換算）は565.6点で、前年（確定）と比べると25.1点の大幅アップ。平成2年のセ試開始（平均点612.8点）、9年の旧課程入試開始（同588.9点）など、入試システムの改変時や教育課程変更時の入試では、高得点となる傾向がみられる。

得点調整の対象科目間の平均点較差をみると、地歴：世界史B - 日本史B = 12.1点、公民：倫理 - 現代社会 = 10.3点、理科：物理 - 地学 = 11.8点で、得点調整は実施されない模様だ。

次ページに平均点(中間集計)一覧を掲載

平成18年度大学入試センター試験(中間集計)平均点等一覧

<平成18年1月25日 大学入試センター発表>

教科名	科目名	平成18年(中間)		平成17年(中間)		平均点の 対前年差	
		受験者数	平均点	受験者数	平均点		
文系標準型平均点(900点満点)			563.9		547.0	16.9	
理系標準型平均点(900点満点)			572.0		538.6	33.4	
国語(200点)	国語	197,512	122.5	187,651	117.1	5.4	
地理歴史 (100点)	世界史A	648	45.0	1,002	45.4	▲ 0.4	
	世界史B	35,095	67.4	37,462	63.9	3.5	
	日本史A	2,178	57.2	2,489	54.2	3.0	
	日本史B	58,126	55.3	62,879	59.5	▲ 4.2	
	地理A	2,792	63.1	3,413	65.9	▲ 2.8	
	地理B	33,578	65.0	33,275	70.2	▲ 5.2	
公民 (100点)	現代社会	68,774	58.8	67,864	70.7	▲ 11.9	
	倫理	16,695	69.1	20,393	67.6	1.5	
	政治・経済	26,905	62.0	28,596	65.0	▲ 3.0	
数 学	数学 (100点)	数学	5,448	54.9	5,707	49.4	5.5
		数学・A	125,904	62.6	144,205	70.1	▲ 7.5
	数学 (100点)	数学	4,546	36.5	4,882	40.1	▲ 3.6
		数学・B	109,867	58.7	127,179	53.2	5.5
		工業数理基礎	11	42.4	13	51.4	▲ 9.0
		簿記・会計	281	54.0	355	51.8	2.2
		情報関係基礎	150	58.7	174	55.0	3.7
理 科	理科 (100点)	理科総合B	5,127	67.5	—	—	—
		生物	55,964	70.2	61,043	52.6	17.6
		旧総合理科(*)	591	61.0	—	—	—
		旧生物 A(*)	1,355	57.5	—	—	—
	理科 (100点)	理科総合A	9,862	67.5	—	—	—
		化学	69,740	64.7	81,171	66.3	▲ 1.6
		旧化学 A(*)	1,781	59.7	—	—	—
	理科 (100点)	物理	51,736	73.8	56,940	60.1	13.7
		地学	8,211	62.0	7,339	64.1	▲ 2.1
		旧物理 A(*)	701	62.5	—	—	—
旧地学 A(*)		397	55.5	—	—	—	
外国語 (200点)	英語	筆記(200点)	205,270	127.4	224,425	116.5	10.9
		リスニング(50点)	188,365	36.1	—	—	—
		筆記+リス(200点)	—	130.6	—	—	—
	ドイツ語	55	158.1	70	135.0	23.1	
	フランス語	109	138.4	121	134.3	4.1	
	中国語	199	171.7	208	175.7	▲ 4.0	
	韓国語	122	156.7	145	157.4	▲ 0.7	

<注> 文系標準型平均点(900点満点)は、国語(200点)、地歴(100点)、公民(100点)、数学(100点)、数学(100点)、理科()、
 合わせて集計100点)、外国語(200点;英語は筆記<200点>+リスニング<50点>の得点率を基に200点換算)の加重平均点。
 理系標準型平均点(900点満点)は、上記文系型の地歴と公民を合わせ(1教科として集計100点)、理科を2科目()、
 の各加重平均点の合計×2/3=200点)、とする5教科7科目の加重平均点。
 国語の17年受験者数は旧「国語+国語」、平均点は旧「国語」のそれぞれデータを掲載。
 工業数理基礎、簿記・会計の17年受験者数及び平均点は、それぞれ旧工業数理、旧簿記のデータを掲載。
 物理、化学、生物、地学の17年受験者数及び平均点は、それぞれ旧「B」科目のデータを掲載。
 理科の*印科目は、旧課程履修者に対する経過措置のための科目。
 文系・理系とも、大学入試センター発表の科目別平均点(小数第2位まで)と受験者数をもとに旺文社が算出(小数第1位まで)。
 5教科6科目(文系・理系共通の800点満点を900点満点に換算)の加重平均点は、565.6点で、17年(確定)より25.1点のアップ。
 地歴(B科目間)、公民、理科における得点調整は実施されない模様。